

“もしも”の備えを万全に 町総合防災訓練を実施

町総合防災訓練は10月23日、東根小学校グラウンドで行われ、東根地区の各自主防災会、消防団、東根小学校児童、町職員など約400人が参加しました。訓練は、長井盆地西縁断層帯を震源とする地震の発生を想定した、災害対策本部設置訓練からスタート。その後、水防訓練や応急給水・給食訓練、応急救護訓練、火災防ぎよ訓練など18項目が実施されました。避難訓練を終えた東根小学校

6年生の衣袋元基くんは、災害発生時の安否を声の伝言で伝えられる「災害伝言ダイヤル」を体験し、「もし災害に遭っても家族に自分の安否を伝えられるので安心できる」と緊張していた表情を緩めました。



1_災害対策本部設置訓練
2_水防訓練 3_応急給水・給食訓練 4_応急救護訓練



平成17年1月に運用を開始した救急自動車に代わり、より安心・安全に救急要請に対応していく

より安心・安全な救命救急のために 高規格救急自動車引渡し式

10月21日、消防署白鷹分署で高規格救急自動車引渡し式が行われました。今回更新された救急自動車は、患者室が広くなったことで車内で処置をする場合などの活動スペースが広くなり、救急活動に大きく貢献していきます。また、スイング式のストレッチャー

1 架台が、揺れによる傷病者への負担を軽減。さらに、前ドア部以後の赤帯を反射材で施行し、前側面左右にLED赤色灯を装備することで夜間においても安全に走行することができます。今後も、町民の皆さんの適正な救急自動車の利用にご協力をお願いします。

介護の道への一歩を踏み出す 介護職員初任者研修事業修了式

10月28日、町社会福祉協議会が実施する、平成28年度白鷹町社会福祉協議会介護職員初任者研修事業の修了式が町健康福祉センターで行われました。

今年度の受講生である荒砥高校生6人、一般3人の計9人は、5月から始まった130時間に及ぶカリキュラムや施設実習を終え、この日、竹田寛治社会

福祉協議会会長より修了証を授与されました。受講生の一人で、来年4月から町内の福祉施設へ進む塩川秀幸さん(荒砥高3年)は、「研修は長くて大変だったが、しっかりとやり遂げることができた。これからは、知識・技術・介護の心を持った介護士を目指してがんばっていききたい」と達成感に満ちた表情で意気込みました。



修了証を手にし、笑顔を見せる受講生の皆さん